

コーヒー、紅茶、チョコレートなど私たちが普段当たり前のように口にしている嗜好品は過酷な状況下で毎日働き続ける労働者達の厳しい生活のうえに成り立っています。日本で目に付くのは販売を促進するためのうたい文句ばかりですが、その生産者達は自分達が一生涯かけてつくり続けているものを口にすることさえできないほど虐げられているとテレビを見て知り、このような社会構造に疑問を持ちました。さらに、消費する先進国と生産する途上国との格差がますます開いていく中で、言葉に仕切れないけれど何かがおかしい、と強く感じるようになりました。

私はこの疑問を論文ではなく舞踊という形にしました。ゼミ史上初、そして今後もきつとないのではないかと思います。私が毎日飲んでいるコーヒーに、コーヒープランテーションへ一生をささげる労働者達が何を思うのか、想像でしかありませんが言葉ではあらわせないものを伝えなかったです。相当恥ずかしいことをしたなと思いますが、印象に残ってくれたならばそれでいいかなと思います。

この問題をどう解決したらいいのか分かりません。私達が深く加担しているのに、コーヒーの不買が解決だとは思えないし何かいい案があるのか、何ができるのか考え付きません。ただ、何の苦勞もせずともいつでも手に入れられて、パックに入り並べられているコーヒーやそのほかの嗜好品の裏側になにがあるのか、それを気に留めておくだけでも多少の変化にはなるのではないか、それが今の私が思いつく範囲での精一杯のことであり、それを伝えられたらうれしいです。

使用曲 anytime Kelly Clarkson